資料１－１

議題１　災害時における医療救護所用の医薬資材について（岡崎市提出）

市名	回答	
	（１）医薬資材の品目や量はどのように決めているか	（２）医薬資材の品質維持管理のために温度管理、在庫管理の方法等、配慮していること
名古屋市	医療救護所の活動に必要と想定される医薬品3日分について、市医師会及び薬剤師会と協議の上、決めている。（内服薬25品目、外用薬8品目）	市薬剤師会に対して災害時応急用医薬品の備蓄業務を委託しており、薬局における適切な管理の下、定期的（一部の医薬品を除き2年ごと）に備蓄医薬品を更新している。
豊橋市	応急救護所の役割を踏まえ、医師会や薬剤師会に協力をいただき、必要物品や薬剤の種類、量の検討を行い決定している。また、DMATなどの基本装備も参考にしながら、医師会救急災害対策委員会の医師に意見を仰ぎ、医療資材の決定をしている。	・医薬資材については、応急救護所の処置室となる小中学校の保健室に保管している。校舎内での保管のため、ある程度の温度、湿度等の調整はできていると考える。 ・保管庫については、鍵をかけ、鍵は職員室で保管する等、生徒が勝手に保管庫を開けられないよう配慮している。 ・各応急救護所担当の保健師及び看護師が毎年1度の在庫調査を実施している。使用期限、在庫数、破損状況などの確認をし、更新をしている。医薬材料の期限等については、応急救護所ごとにとりまとめ、データとして保存している。
岡崎市	議題提出市	議題提出市
一宮市	災害時に医療救護所で従事する医療救護班（医師）の意見を反映させるため、医師会と協議している。	休日・夜間急病診療所及び8カ所の中学校を医療救護所としており、医薬材料は室内管理をしている。使用期限等、在庫管理は医療救護を担当する健康づくり課で行っている。
瀬戸市	本市の医療救護所は１か所「瀬戸旭休日急病診療所」を指定しています。尾張旭市と共同で整備運営しています。今年度、尾張旭市と按分して非常用医療資機材を購入する予定です。	休日急病診療所内に医師の指示のもと保管予定です。
半田市	医師会等に相談の上、決定している。	温度管理等のしやすい保健室を保管場所にしている。
春日井市	本市においては、医薬品の確保については総合保健医療センターの貯蔵品及び市薬剤師会との備蓄体制の整備における覚書により行っております。 薬剤師会に備蓄いただいている数量については、市と協議して決定しており、毎年備蓄品の一覧を提供いただき、管理しています。	市薬剤師会の会員により備蓄いただいているため、特にありません。
豊川市	令和元年度に市地域防災計画を見直し、指定避難所等で応急救護所を開設と修正されたが、設置マニュアル等の詳細は今後、関係部署と検討予定。	（１）に記載のとおり
津島市	津島市災害医療対策会議（構成員：医師会、歯科医師会、薬剤師会、市民病院、防災担当課、健康推進課）にて協議して決定している。	定期的に確認し、資材の交換等おこなっている。
碧南市	現在の医薬資材については、医師会・薬剤師会と相談して決めた。	品質維持管理のための温度管理は課題であり現状は行っていない。 備蓄医薬品の在庫管理については、薬剤師会に委託している。
刈谷市	医師会、歯科医師会、薬剤師会と協議の上決定している。	要冷蔵の薬品については、薬品庫の上に小型冷蔵庫を設置し、適正に管理できるよう努めている。
豊田市	災害時の医療救護活動を検討する会議で、医療圏の災害コーディネーターや地区医師会等の外部委員からの意見を参考にして決定	医薬品は保管場所の温度湿度に配慮するため、空調設備が整った建物内で保管
安城市	災害時の医療救助に関する検討会にて、医師会や薬剤師会等との協議にて決定している。	各医薬品の使用期限を一元管理し、年３回入れ替え作業を行う。 薬品庫内に最高最低温度計設置し、温度管理の調査検討する予定。
西尾市	医師会、歯科医師会と相談して決めている。	冷蔵保存しなければいけない医薬品の購入は避け、常温保存できる薬としている。
蒲郡市	医師会や薬剤師会に相談をし、必要な品目を選出してもらい、防災課で避難者の需要に応じて量を考えて	高温にならないように、屋内の適切に薬品が管理できる場所に保管している。医療救護所の設置場所である中学校と協議し、保健室等適切な場所を選択してもらっている。
犬山市	地元医師会支部の防災に詳しい医師に衛生材料に関する必要品目を確認し、予算内で購入している。	休日急病診療所の外科用に使用している衛生材料と共用し、備蓄により在庫が残らないように常に衛生材料は回して備蓄している。
常滑市	軽症者の対応ができるような資材で設定しているが、内容、量について要検討	特になし
江南市	医薬品等は、３師会（医師会、歯科医師会、薬剤師会）との協定の中で原則、市が準備する。ただし緊急時は、３師会が持参するとあることから、現段階では、緊急時に持参してもらうこととして、医薬品の備蓄はしていない。 5か所の救護所にトリアージタッグ、グローブ各100枚、マスク各50箱、滅菌ガーゼ（1箱24枚入り）合計108箱、ビブス合計108枚（赤30枚、オレンジ19枚、緑59枚）を保管している。	温度管理等は配慮していない。
小牧市	救護所で使用する医薬品等については、医師会と調整を図り、保管方法等も含めて検討を行った。	施設の倉庫内など冷暗所に保管している。外科剪刃などは定期的に消毒を行っている。
稲沢市	薬局に相談し選定	年1回薬剤の使用期限を点検し、入れ替える
新城市	今後の課題	今後の課題
東海市	災害対策主管課である防災危機管理課が設定した避難想定者数及び避難日数並びに、救護所や避難所の数に基づき、医師会薬剤師会とも協議の上定めているもの。	救護所となる各中学校には応急手当て用物品のみ保管していただき、今年度以降計画的に内容を更新予定。薬剤は市内の薬局でローリング備蓄をし、毎年内容や使用期限、管理状況を確認している。

資料１－１

議題１　災害時における医療救護所用の医薬資材について（岡崎市提出）

市名	回答	
	（１）医薬資材の品目や量はどのように決めているか	（２）医薬資材の品質維持管理のために温度管理、在庫管理の方法等、配慮していること
大　府　市	当初医師会の防災担当の医師と相談の上、医薬品・医療資機材の内容と個数を決定した。毎年、使用期限の切れるものについて順次更新している。	特にありません
知　多　市	地震等災害時における医療救護に必要な医療品等に関する協定書を知多市薬剤師会及び知多市薬業組合と締結し、その中で決めている。	協定により、調達してもらうため市で直接保管していない。
知　立　市	平成28年度に品目は刈谷医師会が、量については、知立支部の医師が決定している。	冷蔵保管が必要な薬品は、保健センターの冷蔵庫にて保管し、発災時は各医療救護所に持っていく。 また、２月と８月に有効期限の切れる医療資材を新しい物へ交換する作業を薬剤師会に委託している。
尾 張 旭 市	本市の医療救護所は2か所（①尾張旭市保健福祉センター、②瀬戸旭休日急病診療所）を指定しています。①では必要な医薬資材の整備ができていない状況。②の休日急病診療所は瀬戸市と共同で整備・運営していますが、今年度、予算は瀬戸市と按分して非常用医療資器材を購入する予定です。	①においては、医薬材料室（暗所・換気）はあるが、室全体に温度管理がなされていません。 ②休日急病診療所と調整していく予定です。
高　浜　市	地区医師会と相談し、同じ地区医師会内の近隣市の状況に合わせている。	市内の病院に、医薬資材の調達・保管・使用期限の管理業務を委託している。
岩　倉　市	岩倉市医師会と現在検討中	現在検討中
豊　明　市	特にガイドラインは設けず担当課において判断している。	医療拠点となる保健センターにおいて備蓄管理している。
日　進　市	東名古屋医師会日進支部と検討し、必要物品や量を決定している。	医薬資材は屋内管理、劇薬等は鍵付きの保管庫にて管理している。 必要な資材は業者から一括購入しており、定期的に差替えている。
田　原　市	市内８か所の医療救護所それぞに医療救急セット（ＥＭ－５）を配置。 ※ＥＭ－５は、約１００名分の救護が可能な医療救急セットである。	業者委託により、定期的な点検と更新を行っている。
愛　西　市	【八開診療所】３か月から６月分を目安に置いている。使用した分を常に補充する方法で在庫を管理。 【健康推進課】医療救護所用の医療器材については、備蓄の品目や量を現在検討中。（医師会、薬剤師会とも相談予定）	【八開診療所】温度・湿度変化・直射日光の影響を受けない室内で保管。
清　須　市	医薬材料については２市１町の薬剤師会と「災害時における薬剤救護に関する協定書」を締結し、災害が発生した場合に必要となる医薬品及び医療材料その他医療関係物品の備蓄及び供給、並びに薬剤師の派遣協力を依頼できる。品目や量は、薬剤師会と協議し決めている。 市での独自の備蓄はマスクや包帯とシーネ、三角巾の初期用応急処置ができるものを備蓄。	包帯等は厳密な期限はないため毎年、医療救護所開設訓練の際に数量等の確認をしている。
北名古屋市	予算の範囲内で特に施設内での医療トリアージ及び主に外傷処置資材（最低限）と避難所に巡回できるようにリュックに必要物品を入れたものを8個用意。	高温多湿とならない保健センターの建物内に備蓄
弥　富　市	品目については市内の医師に相談、県の医療薬品等供給マニュアルを参考にしている。量は救護所利用推定人数により算出。	エクセルシートで使用期限を把握している。
みよし市	災害時に必要と思われる医薬品、医療機器等を保健師が確認し備蓄。初動時に必要と思われる最低限の量を確保。	屋外の防災倉庫での管理となり、特に温度管理等で配慮していることはない。
あ　ま　市	医薬品の備蓄量についての基準を決めていないため、医師会の助言や同規模人口の自治体の備蓄状況を参考にしたいと考えている。一部の資材はセットで購入している。	精密な温度管理はしていないが、高温となる場所を避けて保管している。在庫管理として、物品の一覧表を作成し、有効期限を確認しながら、ローリングストックを開始した。一部の薬剤や機材等については、購入先業者による定期的な入れ替えを委託している。
長 久 手 市	導入時に近隣自治体等を参考として品目及び量を決定した。	医療資機材は、保健センターの建物内で保管している。 在庫管理については、2年に一度、適切に更新を行っている。